

京都大学薬学部 SGD 演習レポート
第 11 回・第 12 回前半 薬学研究基礎

授業実施日：2018 年 6 月 26 日（水）4 限・5 限、7 月 4 日（水）4 限
担当教員：高倉喜信教授・柿澤昌准教授・高橋有己准教授・申惠媛准教授・
樋口ゆり子講師
対象学生：薬学部 1 回生 83 名（4 クラスで編成）
場所：医薬系総合研究棟 2 階 講義室 A・C、薬学部本館講義室 21・22

授業の目標

今回は 2 回目のディベートになります。科学の関わる論争的な問題に対して、自分たちでしっかりと情報を集めてディベートを行うことを通じて、実践レベルでディベートに関して学ぶことが目標です。ディベートの準備に入る前に、これまでに SGD 演習で学んできた内容のフィードバックが、高須教授により行われました。

授業の場面

1. これまでの授業についてのフィードバック（6 月 26 日 4 限）

SGD 演習では、これまでコミュニケーション、ロジカルシンキング、ディベート、研究倫理など様々なトピックを扱ってきました。ただ、学生がそれらに関連づけることができていないのではないかとこの反省から、SGD 演習に関わる教員および



全学生を対象に、今回フィードバックの時間が設けられました。それぞれの回の良かった点、課題、そして教員側の反省点を、全員で共有しました。

2. ディベートの準備（6 月 26 日）

以前行ったときと同様に、ディベートの準備を行いました。科学の関係する論争的なテーマについて、賛成の立場と反対の立場がランダムにグループに割り振られ、ディベートのための準備をしました。授業時間内に準備が終わらなかったグループは、授業外学習をするように指示されました。

3. ディベートの本番（7月4日4限）

ここでは、一つの教室のディベートを紹介いたします。テーマは、「遺伝子組み換え作物（食品）の生産」というテーマについて賛成か反対か、です。立論、尋問、反駁、総括の時間がとられ、ディベートが行われました。主な論点は、以下の通りでした。



<賛成派>

- 生産性が向上する
- 世界の栄養不足人口がここ20年ほどで1億人ほど減少している
- 経口ワクチンとしての、機能性を持たせることができる
- 反対派が根拠とする、遺伝子組み換え作物の危険性に関する実験には不備が多いため信用できない
- 害虫対抗性、など

<反対派>

- 人体への悪影響
- 農薬の使用が増加し、作物中の残存農薬が増加→環境への影響
- 遺伝的多様性が失われる可能性、遺伝子汚染、など

印象に残った点

これまでの授業の振り返りを、教員からのフィードバックという形で1コマかけて丁寧に行う活動によって、学生がこれまでの自分たちの学びを振り返るのはとても良いと感じました。ディベートも、前回に比べてさらに質の高いものとなっており、特に相手を反駁や尋問で攻める時間には、前回よりも鋭い質疑応答が見られました。

記事作成者：高等教育研究開発推進センター研究員 長沼祥太郎

監修：高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代